



西欧諸国の責任 パレスチナとイスラエル

イスラム組織ハマスが7日にイスラエルへの攻撃を始め、イスラエル軍が大規模な空爆で報復を続けている。ハマスが実効支配するパレスチナ自治区ガザでは子ども3000人以上を含む大勢の犠牲者が出ており、救援も滞っている。イスラエル側は本格的な地上侵攻の構えを崩さない。紀元前からの終わりの見えない争いに、私たちは何ができるのか、考えてみようと思ひ、下記の10月29日の東京新聞の記事をご紹介します。

旧約聖書は神がエルサレムの地をユダヤ人に与え、紀元前1000年ごろにユダヤのダビデ王が王国を築いたと記す。

紀元70年、ローマ軍にエルサレムが破壊され、2世紀前半、ユダヤ人はローマ帝国に征服された聖地エルサレムから追い出された。ディアスポラ（国外離散）の始まりだ。

その後パレスチナの地はイスラム勢力や十字軍に征服される。一方、欧州ではユダヤ人が迫害を受けた。19世紀にシオンの丘（エルサレム）にユダヤ人国家建設を目指すシオニズムが本格化し、ユダヤ人の入植も増えた。

1914年に第1次大戦が始まると、オスマン帝国と戦った英国は、各勢力の協力を取り付けるため「三枚舌外交」を展開。フセイン・マクマホン協定（アラブ人に国家独立を約束）▽サイクス・ピコ協定（フランス・ロシアとオスマン帝国分割に合意）▽バルフォア宣言（ユダヤ人に国家建設を約束）という「空手形」を切り、現在まで続く対立の火種をつくった。大戦後、パレスチナは英国の委任統治領となり、ユダヤ人の移住が進む。

第2次世界大戦中、ナチス・ドイツのホロコースト（ユダヤ人大量虐殺）で約600万人のユダヤ人が殺害された。惨劇を目の当たりにした欧米諸国は戦後、シオニズム運動（迫害を逃れ「神に選ばれた民族として約束されたシオンの地に国家を作る」）への支持に傾く。

国連総会は1947年、パレスチナをユダヤとアラブの2国家に分け、エルサレムを国際管理下に置く決議を採択した。国連のパレスチナ分割決議を受け、1948年にユダヤ人の国イスラエルが建国を宣言した。だが、建国は新たな混乱の始まりでもあった。70万人以上のパレスチナ人（パレスチナに住むアラブ人）が難民となった。イスラエルの存在を認めないアラブ諸国は建国翌日に攻撃（第1次中東戦争）を始めたが、返り討

ちに遭う。

1956年から1973年まで第2～4次の中東戦争を経て、イスラエルはガザ、東エルサレム、ヨルダン川西岸などに占領地を広げ、大量のパレスチナ難民が発生した。

1987年、占領に不満を募らせたパレスチナ人がインティファダ（反イスラエル闘争）を始めた。石を投げるパレスチナ人に対し、イスラエル軍は近代兵器で抑え込んだ。この闘争からイスラム組織ハマスが生まれ、福祉事業などを通じてガザ住民に支持を広げた。

和平の機運が最も高まったのは1993年だ。パレスチナ解放機構（PLO）のアラファト議長（当時）とイスラエルのラビン首相（同）がオスロ合意に調印。互いの存在を認め、将来的にパレスチナ国家とイスラエルが共存を目指す「2国家解決」だ。インティファダは収束し、パレスチナ国家樹立への道筋ができた。

しかし、双方とも合意に反発する声は根強く、難民帰還などの交渉は停滞。ハマスなどの自爆攻撃とイスラエルの報復という負の連鎖は止まらなかった。2000年にイスラエルの右派政党党首だったシャロン氏（後に首相）がイスラム教とユダヤ教双方の聖地「神殿の丘（アルアクサ・モスク）」を訪問すると、パレスチナ人の不満は第2次インティファダとして噴き出した。

オスロ合意の枠組みは事実上崩壊。ハマスが2007年にガザを武力制圧すると、イスラエル軍は壁を建設して封鎖し、ガザは「天井のない監獄」と呼ばれるようになった。イスラエルはヨルダン川西岸の占領地でもユダヤ人入植地を増やし続け、国際社会の非難を無視。イスラエルとハマスは数年おきに大規模衝突を繰り返した。

憎悪が憎悪を生む悪循環を断ち切ることができず、2023年10月7日、ハマスが大規模攻撃。イスラエルはガザを空爆し、双方の市民を含む犠牲者が増えている。

以上が東京新聞に分かりやすいイラストとともに掲載された記事です。

イギリスをはじめとした帝国主義国が他国をダマして、自国の利益を得ようとし、民族間の対立を煽り、取り返しのつかないところに導いたことは明白です。

最近かつての植民地支配や奴隷制度などの責任が問われ、戦利品の返還が求められるなど、新しい動きが活発になっています。イスラエルの暴挙は批判しながらも、どのように解決するかを世界が協力していく必要があるのではないのでしょうか。とりわけこの地域にはかわりが薄かっただけに、平和憲法を持つ日本にはもっともっと積極的な外交が求められているのではないのでしょうか（石林）



新憲法施行と学徒の覚悟 足中（足利中学校）五の二 山本鉦太郎

戦争展でご協力いただいた山本鉦太郎さんから、「こんなものが見つかった」と頂いたのがこの原稿です。旧制中学生の若さで、新憲法に触れた若者の高揚感。見識を持ってこれを受け入れ、新しい日本を自分たちが担わなければならないという気概に満ちた一文を掲載のお許しをいただいて、ご紹介します。

終戦後早1年半猶予の歳月が流れた。8月15日のあの悲しみ、憤り狼狽振りは既に過去のこととなった。その後物価騰貴、食糧難、交通難は我々国民を苦境のどん底に落とし入れたまま、道義は大敗し、知性は低下している中にも連合軍将兵の紳士的態度にずいぶんと反省させられ、その反面われわれは戦いに敗れたという意識がだんだん薄らいできている。日本は敗れたのである。無条件降伏したのである。その結果ポツダム宣言に基づいて連合国によって軍閥官僚政治を一掃し、軍国主義を絶滅し、恒久的平和国家建設のため、あらゆる組織を民主化することを要求されている。

荒波を乗り切って日本に課せられている民主主義を達成するには容易な業ではない。軍国日本から民主主義への転移はただ単にいい服を着替えるような生易しいものでは決してない。日本国民の骨髓まで染み込んだ封建制や軍国調を捨て去ることは一朝一夕にできるものではない。この間には反動的な動きも来るだろうし、民主化の前とはいわば荊の道である。しかし敗戦日本を生かす道はこれ以外にない。我々は大勇猛心をふるい起こして一筋の民主化に向かって邁進しなければならない。

明治憲法にある国家機構から一切の封建的残滓を取り除き、基本的人権を尊重し、人類の敵である戦争を放棄し、主権在民を明記し、ここに新しい文化平和国家となる基礎となるにふさわしい民主新憲法が制定され、5月3日から施行されることになった。

主権が国民に存することを明記した事はまさに画期的な立法であり国会をもって最高機関としたことも基本的人権の尊重とともにいっそう国民の力を確認したものである。

ことに戦争を放棄し、日本国民が正義秩序を基調とする国際平和を誠実に希望する旨を明らかにした事は再建の門出においてわが国民が平和に対する熱望を大胆率直に証明したものである。フランス、ブラジルにおいても戦争放棄を宣言したが、わが国ほど全面的に軍備を撤去し、戦争否認を規定した憲法は世界において初めてであると思う。

では自衛的手段の場合はどうするのか。この戦争放棄はただ単に敗戦したからと言うような単純な考

えのもとに決めたとしたならば将来の日本を考えると憂慮に耐えない。他国の属国となり、あるいは植民地化するかもしれない。

しかしこの悲壮な戦争放棄なる語に私は一点の光明を見出す。それは世界の最高文化国家となって道義国家となって世界を暴力でなく文化面で指導していくことである。この業生易しいものではなく、前途遼遠だが、成し遂げなければならない。これは一に、我々現在の学徒の双肩にかかっているのであってその責任は実に大きい。

(つづく)

玉城デニー沖縄県知事毅然と 民意を背に辺野古埋め立て承認拒否

米軍基地建設のために政府が辺野古沖の軟弱地盤の改良工事の設計変更を申請していますが県は承認しませんでした。国が県に代わって工事を承認する、つまり国が申請して国が許可するという「代執行」に向けて起こした裁判は10月30日、初めての弁論が行われました。

国側は「県が工事を承認しないのは違法で、代執行以外に手段はない。日本の安全保障と普天間基地の固定化の回避が達成できず、放置することで著しく公益を害することは明らかだ」などと主張。

沖縄県は玉城知事自らは法廷で弁論に立ち、沖縄戦で本土防衛の防波堤として犠牲を強いられ、基地集中が進み、あらゆる被害にさらされてきた歴史について触れ「国が唱える危険性の除去や基地負担の軽減は説得力はありません。公益と言うのなら基地反対の民意こそ公益だ。」と述べ、（いままで政府は県民のために何をしてきたのか、いまさら空々しい……）という怒りの現れ。こんな力づくでなく「対話による解決が最善の方法だ」という判断を示してほしい」と求めましたが、これで審理はすべて終わり！？袴田裁判では何十年もかかっているのに、今回はなんと即日「結審」。判決を待つのみ。期日未定。



映画「福田村事件」上映と講演

流山市が「人権フェスティバル」として開催。
日時：12月6日(水) 18時～21時(17:30開場)
会場：スターツおおたかの森ホール 入場無料 申込不要
講演：原作者の辻野弥生さん(講演は18:15～18:40)
映画は9月から今も柏のキネマ旬報で上映中です。(有料)

「九条の会・流山」宣伝と署名

◆11月9日(木) 15:30

おおたかの森駅 自由通路

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山